

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)Tステージ日進米野木II計画	階数	地上7F
建設地	日進市米野木駅前特定土地区画整	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	135人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年3月 予定	評価の実施日	2016年3月24日
敷地面積	1,713 m <sup>2</sup>	作成者	小澤佳子
建築面積	612 m <sup>2</sup>	確認日	2016年3月28日
延床面積	3,147 m <sup>2</sup>	確認者	鈴木幸男

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE=1.5** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア= 3.1

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.4

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.5

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア= 3.6

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.6

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>4.4</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>12.6 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>2.7</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
 LR-3 1 地球温暖化への配慮  
 ②資源の有効活用  
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減  
 ③敷地内の緑化  
 Q-3 1 生物環境の保全と創出  
 ④地域材の活用  
 Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 騒音								
1.2 遮音								
1.3 吸音								
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 昼光利用								
3.2 グレア対策								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
<b>4 空気質環境</b>								
4.1 発生源対策								
4.2 換気								
4.3 運用管理								
<b>Q2 サービス性能</b>								
<b>1 機能性</b>								
1.1 機能性・使いやすさ								
1.2 心理性・快適性								
1.3 維持管理								
<b>2 耐用性・信頼性</b>								
2.1 耐震・免震								
2.2 部品・部材の耐用年数								
2.4 信頼性								
<b>3 対応性・更新性</b>								
3.1 空間のゆとり								
3.2 荷重のゆとり								
3.3 設備の更新性								

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>								
1 生物環境の保全と創出	独自③			2.0	0.30	-	-	2.5
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40	-	-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>								
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			3.0	0.50	-	-	2.5
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	-
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>								
<b>LR1 エネルギー</b>								
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>								
1 建物外皮の熱負荷抑制		断熱等性能等級4を取得		5.0	0.40	-	-	4.6
<b>2 自然エネルギー利用</b>								
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20	-	-	5.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>								
3 設備システムの高効率化				5.0	0.40	-	-	3.0
集合住宅以外の評価(3a,3b)				1.0	-	-	-	-
集合住宅の評価(3c)		一次エネルギー消費量100%以下		5.0	1.00	-	-	-
<b>4 効率的運用</b>								
4 効率的運用				3.0	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				-	-	-	-	-
4.1 モニタリング				3.0	-	-	-	-
4.2 運用管理体制				3.0	-	-	-	-
集合住宅の評価				3.0	1.00	-	-	-
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	-
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>								
<b>1 水資源確保</b>								
1.1 節水				3.0	0.15	-	-	3.0
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.40	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.60	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	1.00	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	-	-	-	-
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>								
2.1 材料使用量の削減				2.4	0.63	-	-	2.4
2.2 既存建築躯体等の継続使用				2.0	0.07	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	-		3.0	0.24	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	-		3.0	0.20	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				1.0	0.20	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自			2.0	0.05	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				3.0	0.24	-	-	-
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>								
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない材料を使用する		3.6	0.22	-	-	3.6
3.2 フロン・ハロンの回避				5.0	0.32	-	-	-
1 消火剤				3.0	0.68	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)				-	-	-	-	-
3 冷媒				3.0	0.50	-	-	-
3 冷媒				3.0	0.50	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>								
<b>1 地球温暖化への配慮</b>								
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2概算値:64%		4.4	0.33	-	-	4.4
<b>2 地域環境への配慮</b>								
2.1 大気汚染防止				2.5	0.33	-	-	2.5
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.25	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.0	0.50	-	-	-
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-
3 交通負荷抑制	独自			3.0	0.25	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-
<b>3 周辺環境への配慮</b>								
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.33	-	-	3.0
1 騒音	独自			3.0	0.40	-	-	-
2 振動	独自			3.0	0.33	-	-	-
3 悪臭				3.0	0.33	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	-
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	-
2 砂塵の抑制				3.0	-	-	-	-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70	-	-	-
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	-

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

(仮称)Tステージ日進米野木Ⅱ計画

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>4.4</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.4	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.7</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:12.6%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用  $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$  の総和

重点項目スコア=  $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)Tステージ日進米野

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 住宅性能評価で温熱等級4、省エネルギー等級4を取得するなど、省エネルギーに配慮した計画とする。 また、道路に面する部分を極力緑化するなど、周辺環境に配慮している。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 シックハウス対策として、建材はF☆☆☆☆を採用する。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 劣化対策等級3を取得する。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 外構部分は駐車スペース・消防活動空地を除いて最大限の緑化を行う。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 省エネルギー対策等級4を取得する。 住戸の外皮は2方向以上を外面させ、有効な採光・通風を確保する。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 有害物質を含まない材料を使用する。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 北側の住宅への日照を考慮し、建物は極力南側へ配棟する。 適切な駐車台数・駐輪台数を確保し、周辺の交通負荷に配慮する。
その他	注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。